

## 2022年 慶應義塾湘南藤沢中等部 算数

各年の思考コード別出題割合は次のようになります。論理的思考力・応用力が求められる思考コード B の問題を中心として、知識・技術の再現力が求められる思考コード A の問題が出題されます。2022年の B2 は 2021 年と同じ出題割合ですが、B1、B3 が減り、A1、A2 の出題が増えています。求められる思考力のバランスは良くなりましたが、反面、取り組みやすい問題構成となりました。そのため、2022 年入試では、1 問の失点が大きな差を生む結果になったと言えます。



大問 1 は、昨年と同じく、計算、一行題でした。例年通り、レベルの高い計算となります。過去問に取り組んできた受験生であれば、見慣れた問題となります。確実に得点しておきたい問題です。大問 2 も例年と同じく、基本的な一行題で構成されていました。(1)は、新学習指導要領から導入された「データの活用」からの出題です。「中央値」は、教科書にも載っている言葉です。(2)、(3)も含めて、どれも確実に得点しておきたい問題です。大問 3 は、折り返しの問題でした。(1)、(2)は確実に得点したい問題です。(3)で差がついたと思います。直角三角形を利用する問題ですが、見つけづらいため、後回しにした受験生が多かったと考えられます。図の F から BD に向かって垂線を下すことでできる 2 つの合同な三角形と相似な三角形 DBC に気づくことがポイントでした。大問 4(1)、(2)は確実に得点しておきたい問題です。(3)は、規則が見つけづらく、正答率もかなり低いと思います。正解できれば大きなアドバンテージになりますが、ここを後回しにして、他の問題に集中する方がよいでしょう。大問 5 は SFC 頻出の旅人算でした。(1)、(2)は確実に得点しておきたい問題です。(3)は、差がつく問題だったと思います。2 人の登り・下りの速さ、2 点間の距離がわかっているので、ダイヤグラムをかくことで状況がとらえやすくなります。大問 6 も SFC 頻出の水そうの問題でした。(1)、(2)は確実に得点しておきたい問題です。(3)は、仕切りのある容器の傾けでした。類題に取り組んだことのある受験生も多かったと思いますが、差がついた問題と言えます。

昨年に比べて問題のハードルが下がったため、差がつきづらかったと思います。そのため、確実に得点しておきたい問題は失点ができません。特に、前半の計算、一行題、大設問の(1)、(2)は、確実にこなしておきたいと言えます。あくまでも予想ですが、大問 3(3)、大問 4(3)、大問 5(3)、大問 6(3)が取れなかったとしても、およそ 7 割 5 分には達することができると思います。